

CYCLE

消費者運動ニュース No.1206 2025年 4月25日

発行所 全大阪消費者団体連絡会

〒540-0026 大阪市中央区内本町2丁目1番19-430

TEL.06-6941-3745 FAX.06-6941-5699

<https://osakacon.org/>

発行人 全大阪消費者団体連絡会

印刷 株式会社 耕文社

個人購読料 年間5,000円(送料込み・消費税別)

購読料送金先 (口座名・全大阪消費者団体連絡会)

郵便振替口座 00900-9-8320

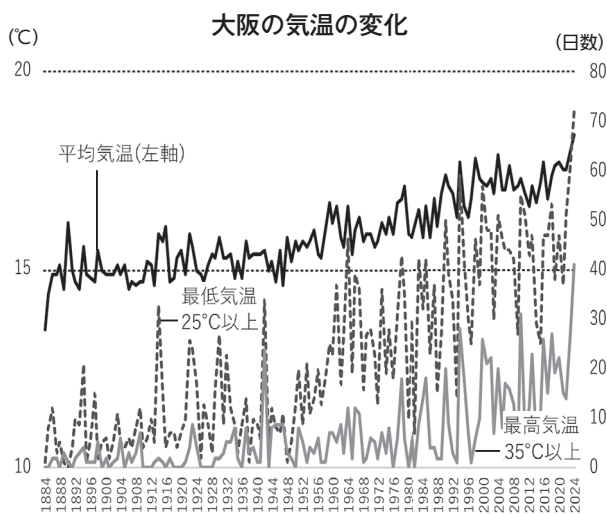
三井住友銀行天満橋支店 普通預金口座 0969062

近畿労働金庫大阪中央支店 普通預金口座 1161622

STOP! 気候危機—4/11グローバル気候アクション

2024年は観測史上最も暑い1年で、世界全体の気温が工業化前と比べて1.55℃上昇したと、世界気象機関が発表した。

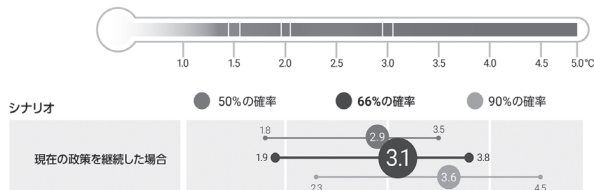
19世紀終わりに14℃台だった大阪の平均気温は、特に暑かった2023年、2024年に18℃台を記録。年間数日しかなかった最高気温35℃以上の日、最低気温25℃以上の日は、2024年には41日と72日に増えた。



*気象庁データより作成

各国が現在の対策を継続した場合、世界平均気温は工業化前と比べて3.1℃(範囲:1.9~3.8℃)上昇すると、昨年10月の国連環境計画の報告書が推定している。

21世紀のピーク温暖化(℃)を産業革命以前の水準と比較



*地球環境戦略研究機関 排出ギャップ報告書2024
(エグゼクティブ・サマリー)日本語翻訳版より

大阪駅前でスタンディング



4月11日、世界各地でグローバル気候アクションが取り組みられ、大阪駅前では25名がスタンディングでアピールした。

2024年1.55℃上昇の2倍に達する3.1℃上昇が及ぼす被害を止めるためには、温室効果ガスの削減対策を強めるほかない。

日本政府が2月に国連に提出した温室効果ガス削減目標は、1.5℃上昇に抑える世界全体の経路の下限ぎりぎりではなく、温室効果ガス排出量が世界5位、一人当たり排出量が世界平均の2倍の大量排出国・日本がその責任を果たすものになっていない。決定的に重要な2030年までの削減も含めて抜本的に見直されなければならない。

大阪消団連は、再生可能エネルギーについて2030年までの発電設備3倍化、2040年電源構成の100%化を目標とし、化石燃料発電と原子力発電から撤退すること等を引き続き求めていく。

主な内容

- 4/11グローバル気候アクション……………1
- 3団体で消費税率引き下げを呼びかけ／
5月20日消費税率学習会のお知らせ……………2~3
- 地方消費者行政への財政措置継続・拡充を……………4~7
- 制度的対応が進む海外プラ汚染対策……………8~9
- 「住まうビジョン・大阪」改定審議……………10~11
- ニュースピックアップ……………12